

第31号 通巻第7巻第2号

1987年3月1日発行

守山市立埋蔵文化財センター

TEL 0775-85-4397

〒524-02

守山市服部町2250番地

はじめに

「春眠、暁を覚えず」。人間の身体は、季節の移ろいを敏感に感じるのでしょうか。発掘調査地の近隣でも、畦や堤防沿いでは草木の芽生えや、鳥の穏やかなさえずりが聞こえ、春が近いことを感じさせます。

今回の「乙 貞」では、新年以降に実施された発掘調査と近況をお伝えしたいと思います。更に研究ノートとして、新たな知見を報告します。

発掘調査だより

新しく調査が開始された大門遺跡、古高遺跡と、前年から継続されている川田遺跡の成果を報告します。

1 大門遺跡発掘調査

大門遺跡の発掘調査は、同自治会による「草の根ハウス」建設に先立ち、2月7日より実地しています。調査地は都市計画道路栗東一片岡線西沿いの畑地で、集落北東辺にあたります。

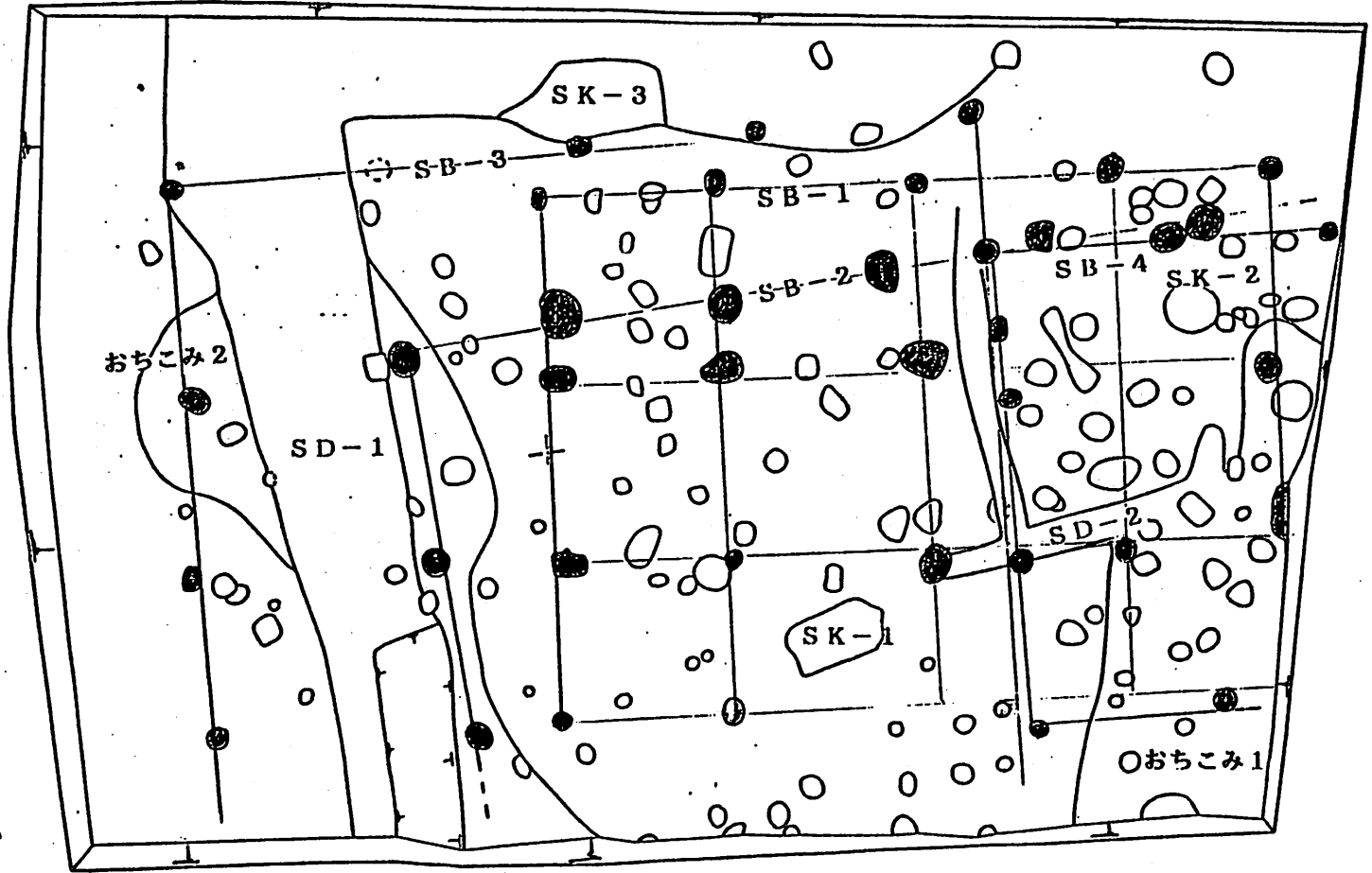
2月末現在、およそ西半分の調査作業を終了しておりますが、その成果は、160穴に及ぶ柱穴と土坑3基、大小の溝2条そしておちこみ2ヶ所を検出し、それに伴う多数の出土土器です。検出した柱穴から、図-1のとおり4棟の掘立柱建物を想定することができます。大小の溝についても、SD-1はSB-1構築の際にその屋敷地に巡らせた区画溝の、またSD-2は建物を特定できませんが、雨落ち溝の性格を推察しています。

東に隣接する道路についても昭和55年建設前に調査が実施され、鎌倉時代前期の同様の掘立柱建物が検出されており、今回の建物も鎌倉時代前期に継続して築かれたものと考えられます。

水田地よりも一段高いこの畑地一帯に中世の集落が営まれていたのでしょうか、調査はあと半分を残しており、次号で今回の調査をまとめ報告したいと思います。

(岩崎)

大門遺跡調査平面図 図-1



2 古高遺跡発掘調査

今宿町自治会館の西約100mの今宿町字経田で1月12日から発掘調査を行っています。この一帯では、これまであまり発掘調査は行われていなかったのですが、今回宅地造成の申請があり、調査はこれに伴うものです。約1200㎡を対象にしていますが、現在も調査中のため、2月23日現在までについて報告いたします。調査地の全面にわたって遺構を検出しています。これまでに竪穴住居（SH）2棟、古墳と方形周溝墓（SX）6基と掘立柱建物（SB）7棟を検出しました。

まず竪穴住居ですが、SH-1では直径5m前後を測る円形住居です。深さは15cm程度と浅く、床面から弥生時代後期の高坏が出土しました。SH-2は長辺で約5.2m、短辺で4.1mの台形状となっています。掘削作業はまだのためよくわかりませんが、埋土がSH-1に近いことからすると、同じ時期と考えられます。

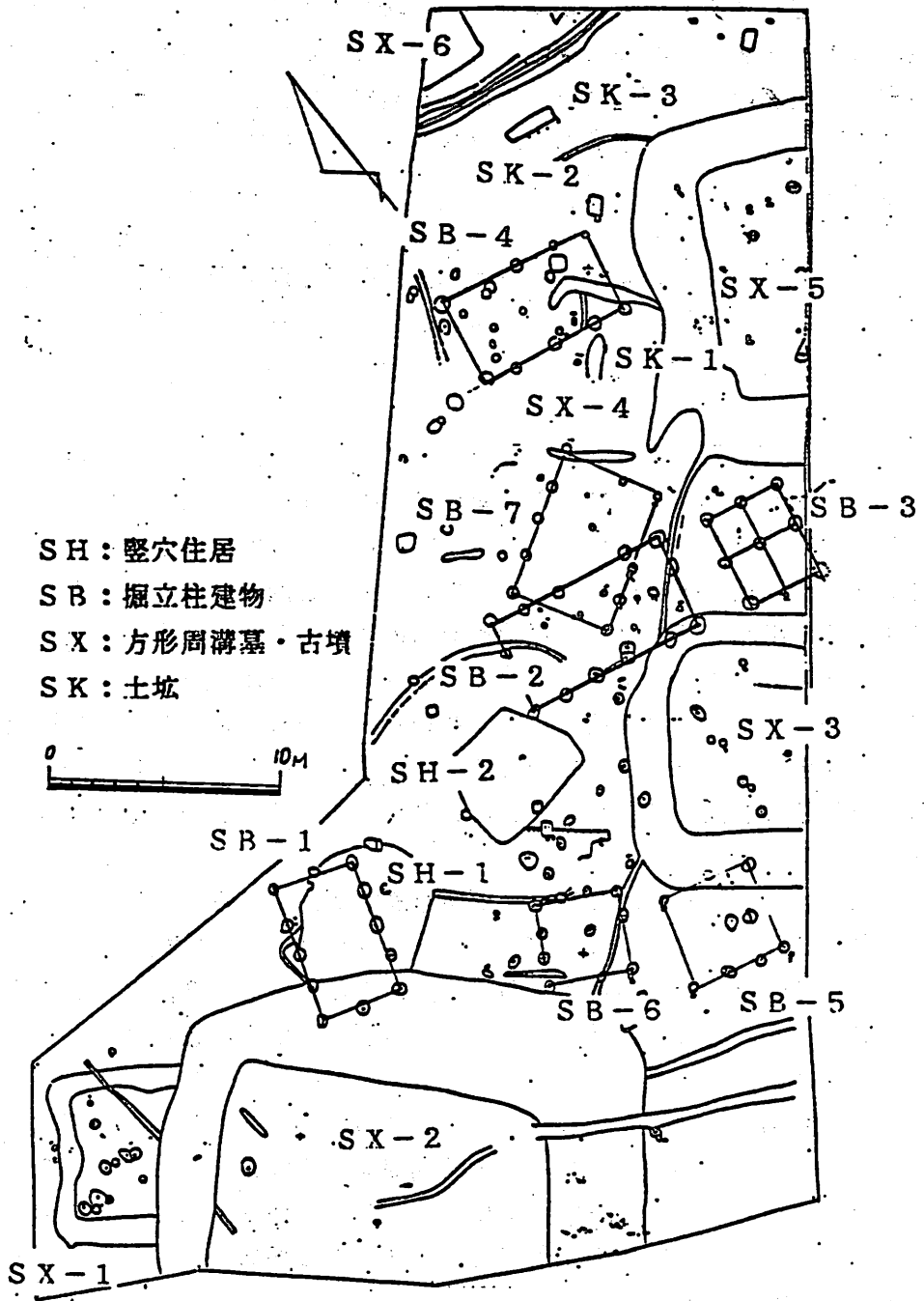
古墳及び方形周溝墓について、まずSX-1は一辺10m四方の台状部に幅1m、深さ20cmの溝が巡りますが、南東の溝はSX-1によって切られています。溝内からは少量の土器が出土しています。SX-2は調査区の中で最も大きく台状部で約15m、溝幅も広いところで5m近くを測ります。この溝の底から器台や高坏が出土しており、古墳時代前期のものと思われます。SX-3とSX-5は約半分だけ検出でき、台状部でそれぞれ一辺が7mと10mを測ります。まだ掘削途中のため、時期についてはわかりません。SX-6は調査区の北端で検出しました。ここも未掘削です。SX-4はSX-5に隣接しており、溝はそれぞれ独立してあります。このSX-4のほぼ真中には主体部と思われるSK-1があります。

土塚としてSK-2、SK-3がありますが、これらは土塚墓の可能性ががあります。SK-2は1.5m、SK-3で3mの長さを測ります。

掘立柱建物は小さいもので2間×2間、大きいもので3間×5間の柱間をもっています。方位は磁北よりだいたい11度～30度東へ振ったところで建物の軸がそろいますが、SB-7のみ60度近くも振っています。

以上、掘削した遺構を中心に述べてきましたが、それぞれの時期は遺物や埋土及び切りあい関係などから4つの時期が考えられます。つまり、SH-1はSX-2に切れ、SX-2の上にSB-1が築かれ、ここで3つの時期差がわかります。さらに灰色の土層で覆われたところがあり、これを含めて4つの時期が想定できます。

(畑本)



古高遺跡遺構平面図

図-2

3 川田遺跡発掘調査

去る1月19日(土)に、川田遺跡の現地説明会を行いました。天候にも恵まれ、100名を超える参加者をむかえ、現説のあと川端 弘 先生の講演会と「まぼろしの村・合村」の映画上映を無事終えました。ひとえに地元川田町の方々の御協力あってのこと、感謝申し上げます。

ところで、同遺跡は現在も調査を続けておりますが、前号報告以降の知見を報告したいと思います。C区は合村の推定地に最も近い地点ですが、「コ」の字状にめぐる2条の溝を検出しました。屋敷のまわりをめぐる区画溝だと思われませんが、出土遺物は、天目茶碗(美濃焼)、おろし皿(瀬戸焼)、皿(唐津焼)など江戸時代前期(17世紀)のもので、合村の盛行情と一致しています。

B区(グラウンド内)では、鎌倉時代の水路や田畑の跡が一面に検出されたほか、古墳時代後期の溝などが見つかりました。更に下層からは、古墳時代前期、弥生時代中期、弥生時代前期の遺構面が想定されています。これらの遺構面は大昔の水田跡と考えられ、稲栽培を確定する調査(プラントオパール分析)や当時の自然環境を復元する花粉分析を先日行いました。

いずれにしても、現代から2000年以上の昔から川田町に人々が居住していたことが裏付けられたわけです。

(伴野)

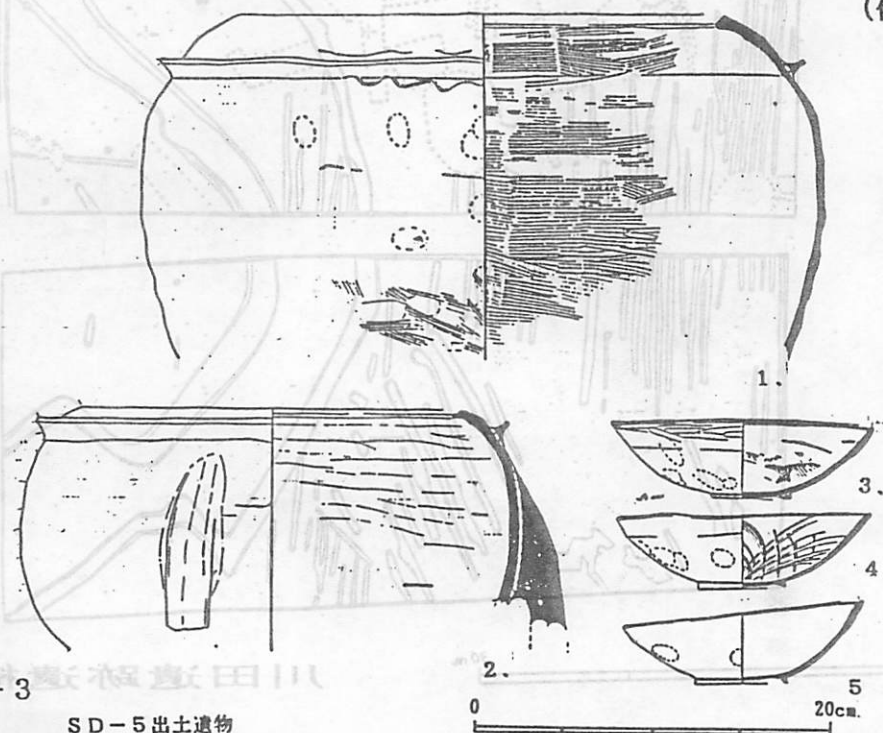
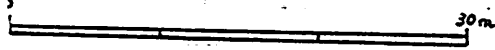
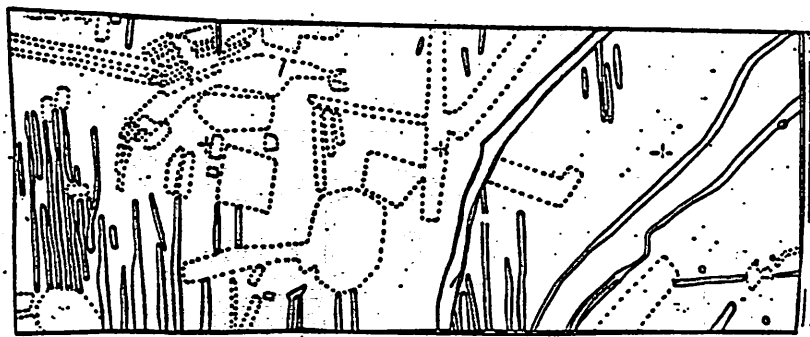
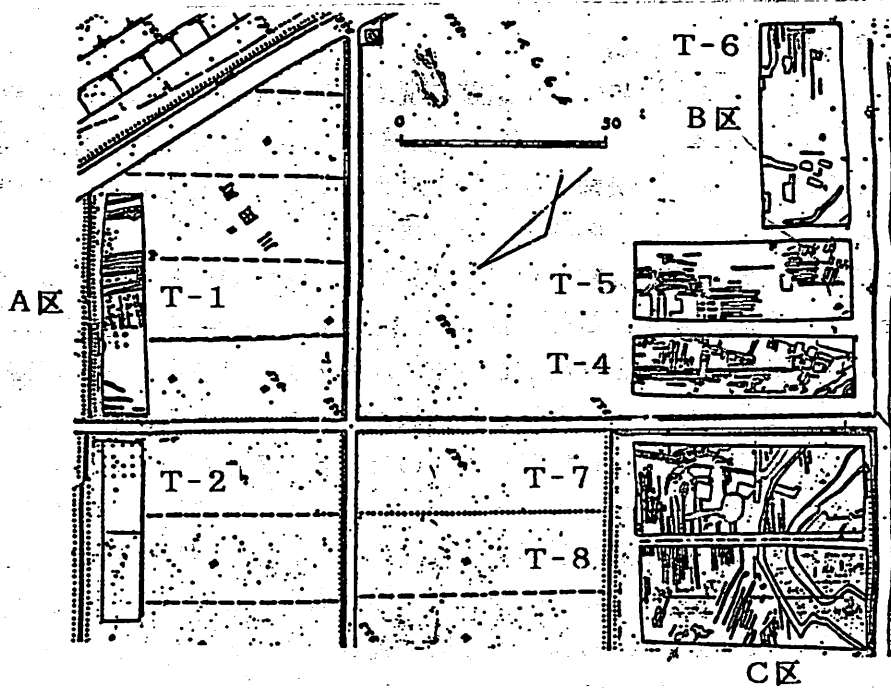


図-3

SD-5出土遺物

1, 2 羽釜 3~5 黒色土器碗



川田遺跡遺構図

図-4

庭塚古墳は前方後円墳か

守山市金森町地先の山柿団地の西側水田中に、こんもりとした小山が残っている。遺跡名は庭塚古墳で、現在30歳以上の方にはその古墳で遊んで「狐山」と呼んだということである。昭和57年に測量の1/1000の地形図や現在の土地を観察すると、妙な「あぜ」が残っていることに気がつく。(図-5)古墳の回りに区画の少し異なる線が残っているのである。壊された古墳や、現在残っている(平地)古墳に、周濠の跡や、その大きさを知る手がかりが秘められていることが多く、庭塚古墳にこのあぜを参考にして、古墳を復元すると図-6のようになる。山柿団地造成に先立って調査をした金森東遺跡では庭塚古墳の周溝や盛土はみつかっておらず、東の端は団地より西にあることになる。また、団地からぬけて古墳の方へのびる水路があるが13年前に三宅町の故横江鹿治郎氏がこの改修工事の際に埴輪の小片を採取されており、墳丘の端か、周濠の一部であったことを予想させる。

庭塚古墳が前方後円墳であったとき、全長100mを越す、平地の古墳、この古墳は大きい意味を提示することだろう。また、市立図書館の東にも「あぜ」が乱れていて、特殊な地を成していることも今後、要検討の対象である。

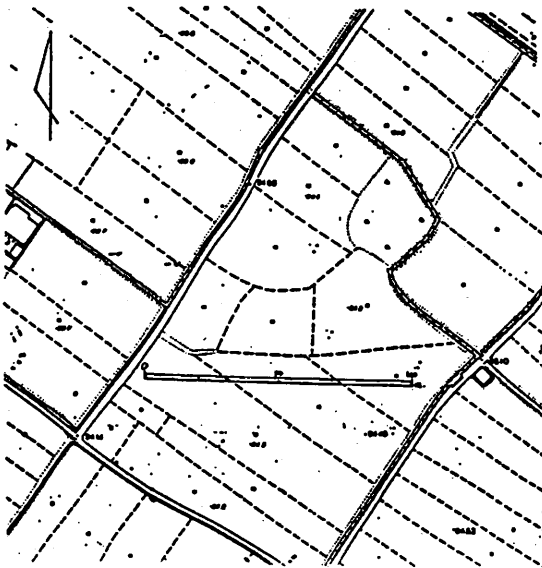


図-5

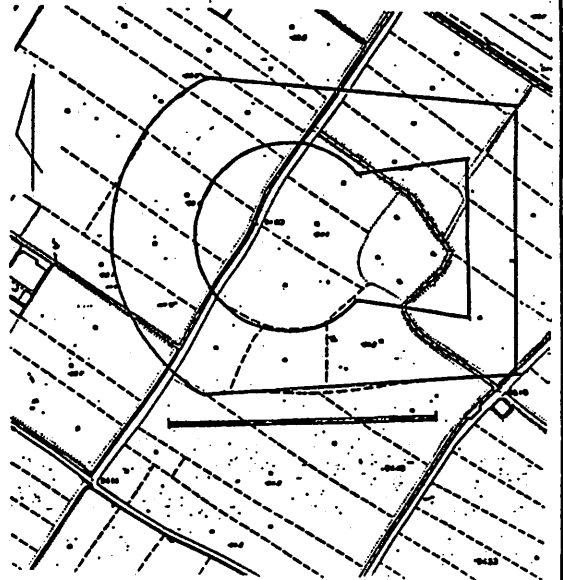
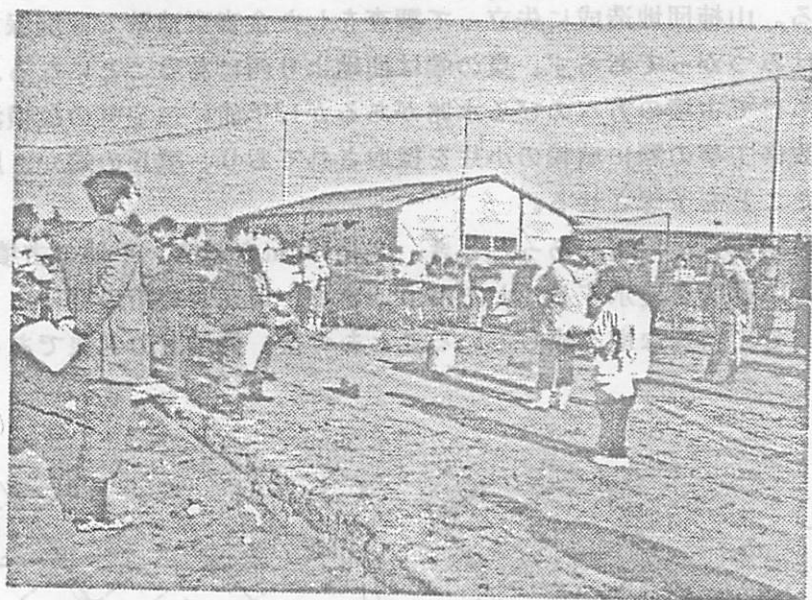


図-6

川田遺跡の現地説明会開催

去る1月19日(土)、川田遺跡の現地説明会を行いました。天候に恵まれ、地元川田町の方々を中心に100名を超える参加者をえ、幻の村「合村」を考え、良い機会になりました。江戸時代の屋敷地をめぐる溝や、鎌倉時代の掘立柱建物、そこから出土した遺物を見学したのち、歴史地理学的に合村の研究を進めてこられた、川端 弘 先生の講演会を川田町自治会館で行いました。その後「まぼろしの村・合村」(BBC制作)の映画を上映し、300年前の村の生活「思い」をさせました。現説にあたって、地元川田町の方々には、多大な御協力、御言葉を御受け、無事現説が成功に終わることができました。感謝申し上げます。



特別展のお知らせ

今年度も、市内では多くの発掘調査を行いました。私達の生活の身のまわりから、江戸時代から弥生時代にさかのぼる、さまざまな時代の遺物が出土します。これらの資料は、整理作業中ですが、その中間報告として、下記の通り開催、展示いたします。

開催テーマ	「昭和61年度発掘調査速報展」 主要遺跡—吉身西・二ノ畦・川田・大門遺跡など
期 間	昭和62年4月29日(水)～5月10日(日)
開館時間	午前9:00～16:00 (期間中無休)
場 所	守山市立埋蔵文化財センター
関連行事	講演会を予定しています。